



川の水はこおることがあるの

水温が0以下になるとき

川の水温は、水面での水温と気温とのちがい、地中の温度とのちがい、それに地下水が流れこんでくるかどうかなどにより変わります。

また、川の上流、中流、下流、緯度などのちがいによって、川の水温は変わります。わき水や支流から、水が流れこんでくるときにも、水温が変わります。

川の水がこおるのは、水温が0以下になるときです。しかし、川には地下水が流れこんだり、川の水は流れているので、なかなか0以下になることはありません。

北の寒い地方でこおる

川の水がこおる所は、アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸などの、北の寒い地方で見られます。アジアでは、北緯35度よりも北の地方です。

川の水がこおっている日数は、北へいくほど長くなります。氷の厚さは、こおっている日数が長くなるほど厚くなります。

こおっている日数が、50日で約35センチメートル、100日で約70センチメートル、150日では、120～130センチメートルにもなります。

日本では、オホーツク海沿岸地方の川で、こおることがあります。シベリア南東部と、中国東北部との国境や、その近くを流れるアムール川は、上流で11月の初めごろ、下流で11月の中旬ごろにこおって、4月ごろにとけます。（監修・国司 真）

